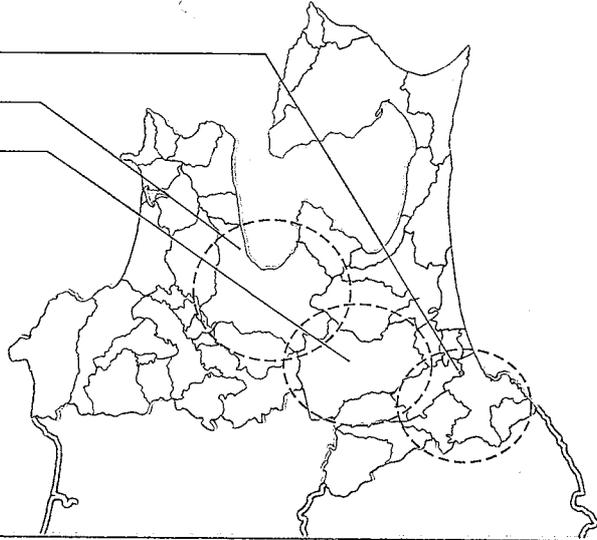


青森支部

八戸地区電友会
青森地区電友会
十和田地区電友会



みんな無事で良かった



八戸地区電友会
松倉 昌之

あの時は、N.T.T東日本―青森・八戸設備センタの所長をしておりまして。

グラグラと揺れが強くなった時、柱につきまりながら「慌てて逃げるな！机の下に隠れろ！」と大声で叫んでおりました。揺れが治まった後に直ぐ、外に出ている社員の安否を確認し帰省するよう連絡すること。特に沿岸部で作業している場合は高台に避難すること。余震に備えてヘルメットをかぶり、家族の安否を確認すること。発電機を回し電源を供給して、青森の災害対策室との連絡手段確保とテレビで情報収集すること。を最優先で対応しました。

当初のテレビでは、八戸港の津波の様子が生々しく映し出されておりましたが、夕暮れが近づくにつれ岩手や宮城の津波、火災等の映像が次々に伝えられ、各地の被災状況が報道されるなか、東北はどうなるのだらうと思いつつながら青森と連絡を取り夜を過ごしました。

幸い社員と家族の皆さんは無事で大きな被害に遭われた方が無かったため、翌日の土曜日から総動員で設備の被害状況調査と故障修

理を行いました。作業をする際、車内では常にラジオを聴くことと、余震を感じた場合は高台に避難し職場に連絡することを徹底しました。

設備調査と故障修理を行う上で、社有車については優先的に給油してくれるガソリンスタンドが、近くにあり大変助かりましたがマイカーのガソリンが不足し社員の通勤手段を心配しました。

八戸エリアも被災地でありながら福島、宮城、岩手に比べ被害が少なかったため社員の方々には、3月下旬から釜石エリアへ故障修理の支援に行ってもらいました。

支援に行った社員は、食べ物も良くなかったけど八戸ナンバーのバケット車を見て「八戸も被災地なのありがとう！」と声をかけてもらったことが力になったと言っております。

震災以降は、災害に備えいろいろな準備は勿論のこと「家族どうしの安否確認ルール」を決め、常に確認し合う事が一番大切だと改めて痛感しました。

万が一の場合、家族が無事で有れば多少の事は我慢できますし元気が出ます。

あの時を振り返って思う事は、当時のメンバー66人とその家族の方々が無事で大きな被

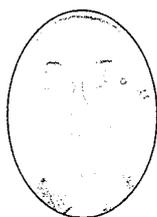
害もなくて本当に良かったと改めて思っております。

みんな！ 頑張ってくれてありがとうございます！



津波による電柱の折損(八戸魚市場周辺)

東日本大震災からの復興を祈る



青森地区電友会
館山 生木

私は、東日本大震災が発生した平成23年3月11日、N T T鬼怒川保養所「碧流荘」に支配人として勤務しておりました。保養所は、

震度6強の地震で大きく揺れました。建物が比較的頑丈にできていたこともあり、エレベータが止まり、一時的な停電となりましたが、建物の損傷、怪我人などはありませんでした。

一方、私が一年前まで勤務していたN T T飯坂保養所「溪泉荘」は、建物が大きく損傷し、宿泊を継続ができなくなり、平成23年3月末で閉館することとなりました。

テレビのニュースで、巨大な津波が家や車人や集落をのみ込む映像には胸が痛みました。加えて、福島第一原発では水素爆発が起き、放射能の恐怖に人々が襲われました。連日、テレビのニュースで、原発事故の模様や対応が流れましたが、対応が後手後手に回り不安が募るばかりでした。

私は、この大震災で、「計画停電」、「東北自動車道の損傷」、「友人の非難生活」が思い出されます。一つ目の「計画停電」は、始め何のことだろうと思いました。「計画停電」がスタートしましたが、自分のエリアが行われるのかわかりませんでした。該当しそうな日時になるとハラハラドキドキしながら過ごしました。結局、何度も予定されていたが、1回だけ「計画停電」に入りました。この「計画停電」は、暮らして経済を大きな

混乱に巻き込みました。二つ目は、「東北自動車道の損傷」です。平成23年3月末で支配人を辞め青森に帰ることになりました。東北自動車道を北上しましたが、道路の損傷がひどいものでした。途中古川のホテルに泊まり2日がかりで青森に帰りました。三つ目は、「友人の避難生活」です。福島県双葉町に友人が住んでいました。年老いた両親と一緒に避難生活を余儀なくされました。東北の友人たちと声を掛け合い、雀の涙ほどの支援を行いました。今は、福島県双葉町に戻ったようですが、復興には程遠い状況のようです。

東日本大震災からの復興は、まだまだこれからではないかと思えます。被災した方々が一日も早く平穏な日常生活に戻れるように祈りたいと思います。

あの時私は



十和田地区電友会
高坂 義雄

2011年3月11日、私は月1回の定期検査の為、八戸赤十字病院呼吸器科にいた。14時に検査結果を聞いて、会計を済ませて玄関を出たとたん地面がスライドしたように感じ

私と女房はその場に座り込んだ。駐車場の車は凄い勢いでバウンドしていた。病院内は騒然としていたが、とりあえず十和田の自宅に帰ることとし車で向った。

車のラジオで地震情報を聞いたら宮城で震度7で大津波警報が出ているのを聞いたが何故か、呆然としていて家の金魚の水槽は大丈夫か二人で心配していた。娘が東京にいるので、携帯で女房が安全を確認したが、電話が通じないのでメールした。家に着いて見ると水槽は大丈夫で棚のものも落ちていなかった。停電していた。

一息ついて、懐中電灯、ローソク、携帯ラジオ、カーナビを準備をした。ストーブ、ボイラーも使用できず家の中は寒かった。たぶん一晩位で停電は復旧するだろうと、高を括っていた。メールで娘の無事を確認。カーナビのTVで、津波の被害を見て恐怖を感じた。N.T.T設備も壊滅状態だと思った。夜になり食事は水道、プロパンガスが使用出来たので冷蔵庫の中の冷凍していた物でおかずを作り、鍋でご飯を炊き何とか食事にありついた。ストーブが使用できないため、携帯ガスコンロで暖を採ることにし、一部屋に二人でいることにした。この時初めて密閉型の家にしたことに感謝した。一部屋で締め切ると

携帯ガスコンロで十分暖を採れることがわかった。津波の押し寄せるのを見て不謹慎だが、まるで映画を見ているような感じで漠然とした思いしかなかったが、次第に、体が震え、見つめているのが出来なくなった。

2日目、近くのスーパーで食料品を販売するので並んだがカップラーメン2個しか買えなかった。電池を買出しに単一10個、単三8個、単四8個、個人商店で買えた。ガソリンを給油するためスタンド回りをし、20リットル詰めることが出来た。電力の復旧は後2日位かかる見込みのため19時には布団に入った。

3日目、女房の甥が気仙沼で連絡が付かないと、連絡あり被害が大きかった所なので心配だ。このままだと懐中電灯の電池が持たないかも知れない。

4日目、昨夜一丁手前まで電気が回復した。今日中に回復の見込みで予定通り午前中に回復した。夜になり電気が付いた時はなんと明るいだらうと感謝した。被災地では、寒い中大変だろうと思うが何も出来ない自分に苛立ちを覚える。電気が回復したのでパソコンで甥の安否の確認を試みたが、まだ確認できない。

5日目、甥の嫁さんに連絡が付いた。子供も元気だが甥には連絡できず。携帯が通じな

い。

6日目、朝、パソコンの安否情報で甥の無事を確認。安心した。

東日本大震災後、防災用品を整備し、車両小屋、家に分散収容した。



宮城県 浜田港/五ッ橋クラブ 高砂 純治